

日本文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文学概論	王朝物語文芸の世界	2	横溝 博	3	金	3	1	国文学概論
日本文学概論	日本近現代文芸の世界	2	仁平 政人	4	金	3	2	国文学概論
日本文学基礎講読	川端康成の掌編小説を 読む	2	仁平 政人	3	金	2	3	国文学基礎講読
日本文学基礎講読	『平家物語』を読む	2	佐倉 由泰	4	金	2	4	国文学基礎講読
日本文学各論	『源氏物語』の成立と展 開	2	横溝 博	5	月	2	5	国文学各論
日本文学各論	中世紀行文芸の研究	2	佐倉 由泰	5	火	2	6	日本文学各論
日本文学各論	昭和初期文学の諸問 題	2	仁平 政人	6	月	2	7	国文学各論
日本文学各論	中世紀行文芸の研究	2	佐倉 由泰	6	火	2	8	日本文学各論
日本文学各論	西行の和歌表現とその 詩想	2	平田 英夫	集中(5)			9	国文学各論
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	5	月	5	10	国文学演習
日本文学演習	戦後の短編小説の研 究	2	仁平 政人	5	水	2	12	国文学演習
日本文学演習	『太平記』の研究	2	佐倉 由泰	5	木	2	13	国文学演習
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	6	月	5	14	国文学演習
日本文学演習	戦後の短編小説の研 究	2	仁平 政人	6	水	2	16	国文学演習
日本文学演習	『太平記』の研究	2	佐倉 由泰	6	木	2	17	国文学演習

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：横溝 博 (教授)

講義コード：LB35301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学概論】

1. 授業題目：

王朝物語文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：

World of Ocho Monogatari (tales of the Heian and Kamakura periods)

3. 授業の目的と概要：

日本の物語文学はいつ発生し、いつ終わったのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の生成と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、具体的なテキストを取り上げつつ探っていく。平安から室町と扱う時代は長きにわたるが、王朝物語という文芸ジャンルが終焉するまでを視界に入れ、ときに散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を見極める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。
- (2) 古典作品を読解するに際しての基本的な知識を習得し、王朝物語を正しく鑑賞できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる)

- 1 王朝物語史 (現存物語、散逸物語)
- 2 前期物語 (竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語)
- 3 源氏物語
- 4 後期物語 (狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語)
- 5 院政期物語 (海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ)
- 6 歴史物語 (大鏡、栄花物語)
- 7 物語評論 (無名草子)
- 8 物語歌合 (物語二百番歌合)
- 9 物語歌集 (風葉和歌集)
- 10 中世王朝物語 (鎌倉時代)
- 11 中世王朝物語 (南北朝時代)
- 12 中世王朝物語 (室町時代)
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者 (六条斎院物語歌合)
- 15 王朝物語の終焉 (室町時代物語、お伽草子へ)

6. 成績評価方法：

学期末に提出するレポート [50%] と出席 [50%] をもって評価する。なお、毎時間提出するミニツツペーパーの記載内容も、出席点の対象とする。

7. 教科書および参考書：

基本的にはプリントを使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用するので、毎時間用意すること。

8. 授業時間外学習：

作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書が存在するので、授業で紹介したものも含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

9. その他：なし

本講義は第4 semesterも連続して履修すること。

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB45301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学概論】

1. 授業題目：

日本近現代文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：

Study on Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：

〈書きかえる〉をテーマに、明治時代から近年に至るまでの多様な文学作品を取り上げる。作品の具体的な読解を行うとともに、分析の方法や、近現代文学の特性・意義などについての概説を行う。

毎回の授業の終わりに、授業内容について考えたことや質問を提出してもらおう。次回の授業で、その回答や補足説明も行いながら授業を進める。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本の近現代文学について、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的な分析を行うことをとおして、その多様な特質に関する理解を深める。

(2) 作品分析の基本的な方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 読解のレッスン 夏目漱石「夢十夜 (第一夜)」
3. 分析の視点
4. 小泉八雲「雪女」
5. 内田百閒「件」
6. 芥川龍之介「羅生門」の生成論
7. 芥川龍之介の王朝物と〈内面〉の問題
8. 尾崎翠「こほろぎ嬢」
9. 川端康成の〈犯罪小説〉
10. 太宰治「女生徒」
11. アダプテーション論の視界 (1)
12. アダプテーション論の視界 (2)
13. 三島由紀夫「卒塔婆小町」
14. 村上春樹・変容する〈恐怖〉
15. 川上弘美「神様」

(なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

6. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

7. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品について、事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読むこと。

9. その他：なし

本講義は第3セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学基礎講読】

1. 授業題目：

川端康成の掌編小説を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read Kawabata Yasunari's "Palm of the Hand Stories"

3. 授業の目的と概要：

川端康成（1899～1972）は作家としての出発期から晩年に至るまで、「掌の小説」と総称される短い小説を発表し続けた。それらの小説群は大正期に新たな表現の試みとして始発しつつ、時代の状況とも連動して多様な特性を帯びている。受講者は担当する作品について、（1）基本情報の整理、（2）注釈、（3）先行研究の整理、（4）1～3を踏まえた考察、の四点をレジュメにまとめて、報告を行う。報告と質疑応答を通して、作品に対する理解を深めるとともに、近代文学を研究する基本的な手続きと、分析の視点を身につけることが本講読の目的である。

4. 学習の到達目標：

- （1）本文の異同の確認や文献の収集、コンテキストに関する調査など、近代文学研究の基本的な手続きを実践的に学ぶ。
- （2）近現代文学の特性について理解を深め、小説を分析する視点を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「掌の小説」とは何か
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（60%）、授業への積極的参加（40%）

7. 教科書および参考書：

川端康成『掌の小説』（新潮文庫）。参考書は授業中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

9. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB45201, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学基礎講読】

1. 授業題目：

『平家物語』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”

3. 授業の目的と概要：

文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、『平家物語』の表現の調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。

4. 学習の到達目標：

- (1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
- (2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
- (3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
- (4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかにたいせつかということ考察の実践を通して理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに一文学表現を読み解くために一
2. 『平家物語』の概要
3. 『平家物語』の成立と諸本
4. 変体仮名を読むために
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：かな研究会編『実用変体がな』（新典社）

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。

9. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：横溝 博 (教授)

講義コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学各論】

1. 授業題目：

『源氏物語』の成立と展開

2. Course Title (授業題目)：

The Establishment and Development of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』現五十四帖がいかにして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻巻(「桜人」「狭筈」「巢守」さらには「輝く日の宮」)についての『源氏釈』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本(写本群)についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには平安～鎌倉・室町時代の物語作品における『源氏物語』受容の痕跡をも手がかりとして、平安から中世にかけて、どのような『源氏物語』テキストが流通していたのかを探る。その際、古筆切等、新発見の資料にも目配りしたい。文字テキスト以外に、院政期の『源氏物語絵巻』を、詞書とともにDVDで鑑賞する。復元プロジェクトによって、平安絵師の仕掛けた謎が現代に明らかとなるのか――。このような検証、思考を通して、広く「(源氏物語)とは何か」、を考えていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)テキストを批判的に読み解くための基本的な知識を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。
2. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。
3. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。
4. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』の詞書。柏木像の後代への影響。
5. 「桜人」について。『源氏釈』の逸文から復原する。
6. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。『奥入』の記述から考える。
7. 藤原定家の『源氏物語』蒐書活動と書写活動。『奥入』と『明月記』紙背から考える。
8. 「巢守」について(1)。『源氏物語古系図』から復原する。
9. 「巢守」について(2)。「古筆断簡」『風葉和歌集』から復原する。
10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。
11. 『山路の露』について。補作の試みもしくは『雲隠六帖』。
12. 『山路の露』を読む(1)。「序文」を読む。
13. 『山路の露』を読む(2)。薫と浮舟の再会場面を読む。
14. 『山路の露』を読む(3)。浮舟と手習歌。
15. 『山路の露』を読む(4)。物語としての独自性。

6. 成績評価方法：

レポート(中間、期末)の内容[50%]、授業への出席[50%]。また、毎時間提出するミニッツペーパーの内容は、授業への出席点の一部として加点の対象とする。

7. 教科書および参考書：

すべてプリントを用いる。毎時間用意すること。参考文献は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

復習に力を入れること。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、自分で読み進め、内容把握に努めること。

9. その他：なし

二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論各論】

1. 授業題目：

中世紀行文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Description of Travel in Japanese Middle Ages

3. 授業の目的と概要：

十三世紀の紀行文学の『海道記』の記述を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、各作品の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 日本の十三世紀と紀行文学
2. 『伊勢物語』の旅の表現
3. 『平家物語』の旅の表現
4. 『承久記』の旅の表現
5. 『太平記』の旅の表現
6. 『海道記』の旅の表現 (1)
7. 『海道記』の旅の表現 (2)
8. 『海道記』の旅の表現 (3)
9. 『海道記』の旅の表現 (4)
10. 『海道記』の旅の表現 (5)
11. 『海道記』の旅の表現 (6)
12. 『海道記』の旅の表現 (7)
13. 『海道記』の旅の表現 (8)
14. 『海道記』の旅の表現 (9)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

本講義（中世紀行文学の研究）は、第6 Semesterも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB61201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学各論】

1. 授業題目：

昭和初期文学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Study on Early Showa Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では大正末～昭和初期（一九二〇年代中盤～三〇年代）の文学を対象とする。関東大震災からの復興期にあたるこの時代は、都市化や消費社会の進展、あるいは映画・ラジオといった新しいメディアの台頭など、社会・文化の大きな変動期であった。本講義では、こうした時代状況に向き合いながら、新たな表現の可能性を追求していった作家達の試みを取り上げ、多面的な分析を通して、その特性と意義を探る。

4. 学習の到達目標：

文学テキストを、社会的・文化的なコンテキストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、近現代文学の特性や意義について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める。（同一テーマで複数回の授業を行う場合を含む）

1. ガイダンス
2. 関東大震災と文化の変容
3. 都市空間と「探偵小説」 ―江戸川乱歩を中心に―
4. 映画と文学のあいだ
5. 「プロレタリア文学」という問題系
6. さまよえるロボット ―「科学時代」の文化―
7. 横光利一「機械」を読む
8. 川端康成「水晶幻想」を読む
9. 尾崎翠の表現世界
10. 宮沢賢治の表現世界

6. 成績評価方法：

最終レポート（50%）・授業への出席50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

7. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

9. その他：なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB62202, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論各論】

1. 授業題目：

中世紀行文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Description of Travel in Japanese Middle Ages

3. 授業の目的と概要：

十三世紀の紀行文学の『東関紀行』、『十六夜日記』の記述を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、各作品の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

4. 学習の到達目標：

(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『東関紀行』の旅の表現 (1)
2. 『東関紀行』の旅の表現 (2)
3. 『東関紀行』の旅の表現 (3)
4. 『東関紀行』の旅の表現 (4)
5. 『東関紀行』の旅の表現 (5)
6. 『東関紀行』の旅の表現 (6)
7. 『東関紀行』の旅の表現 (7)
8. 『十六夜日記』の旅の表現 (1)
9. 『十六夜日記』の旅の表現 (2)
10. 『十六夜日記』の旅の表現 (3)
11. 『十六夜日記』の旅の表現 (4)
12. 『十六夜日記』の旅の表現 (5)
13. 『十六夜日記』の旅の表現 (6)
14. 『十六夜日記』の旅の表現 (7)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

本講義（中世紀行文学の研究）は、第5semesterから連続して履修すること。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：平田 英夫 (非常勤講師)

講義コード：LB98802, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学各論】

1. 授業題目：

西行の和歌表現とその詩想

2. Course Title (授業題目)：

Waka representation of Saigyō and its Idea of poetry

3. 授業の目的と概要：

東アジア・南アジアといった広大な世界の中で、辺境の俗語の一つでしかなかった和語が、各時代の多くの歌人たちによって繰り返し歌に詠まれ続けることで、それは〈やまとことば〉という概念を生み出し、そして歌語・歌ことばとして純化していき、美的イメージのみならず、歴史性、時には神話性まで纏った詩歌語として認識されるに至るのが平安末期である。和歌は、〈敷島の道〉として日本国のアイデンティティ形成にも大きな影響を持つが、そのような展開の中で、〈雑音〉的役割を担った歌人が西行であった。「西行」という存在は、正統なものに対する、所謂「もどき」のようなものであろうと考えている。雑多で難解な西行和歌を丹念に分析し考察するとともに、その発想を支えた院政期の複雑な時代性や宗教思想を捉えることにより、総合的に「西行」を論ずる。

4. 学習の到達目標：

- ・西行の和歌を通して、院政期の複雑な歴史・宗教・文学の諸相を学ぶことができる。
- ・転換期の和歌文学史を具体的な和歌の読みを通して学ぶことができる。
- ・日本語の多彩で特殊な表現性やそれを支える着想を理解することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1・授業概要、撰関期・院政期の和歌文学史
- 2・西行の時代と宗教・思想
- 3・『後拾遺和歌集』を読む
- 4・『金葉和歌集』『詞花和歌集』から『千載和歌集』へ
- 5・西行と浄土思想
- 6・『聞書集』の地獄歌をめぐって
- 7・西行と花月
- 8・西行の恋歌
- 9・旅をする西行
- 10・讃岐の西行
- 11・『西行物語』を通してみる西行像
- 12・『撰集抄』の西行
- 13・高野山から伊勢へ — 『御裳濯河歌合』を読む
- 14・西行的なるものと定家的なるもの
- 15・まとめ

(授業の進捗状況を見て、多少の変更はあり得る。)

6. 成績評価方法：

レポート(70%)、授業出席状況(30%)

7. 教科書および参考書：

授業資料はプリントを配布する。

参考書は、(1) 西澤美仁『西行 魂の旅路』(角川ソフィア文庫・2013.4)、(2) 宇津木言行『山家集』(角川ソフィア文庫・2018.9)とする。

8. 授業時間外学習：

授業にて配布されたプリント類は、復習として再度、読んでおくこと。

9. その他：なし

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：横溝 博 (教授)

講義コード：LB51501, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学演習】

1. 授業題目：

『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「竹河」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『源氏物語』「竹河」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (匂宮三帖と宇治十帖の関係について、玉鬘物語について)
3. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 「竹河」巻の輪読

- (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
13. 「竹河」巻の輪読
- (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
14. 「竹河」巻の輪読
- (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
15. 「竹河」巻の輪読
- (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（質疑応答を含む）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語 第八巻（匂兵部卿～総角）』を用いるので、大学生協等で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：なし

本演習は、第6セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB53205, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学演習】

1. 授業題目：

戦後の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Postwar Japanese Short Stories

3. 授業の目的と概要：

第二次世界大戦以後の日本文学の多様なあり方について、主に文芸雑誌『群像』(1946年～)に掲載された短編小説を検討対象として、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として1960年代前半までの小説を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「戦後文学」の問題系
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

7. 教科書および参考書：

参考書は群像編集部編『群像短編名作選 1949～1969』(講談社文芸文庫)。その他の参考書は適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

9. その他：なし

本演習は第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学演習】

1. 授業題目：

『太平記』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “Taiheiki (太平記)”

3. 授業の目的と概要：

14世紀の長期にわたる動乱を多様な形質の表現によって描き出した『太平記』の記述を考察する演習形式の授業を通して、文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということを知得して行く。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに一『太平記』の時代一
2. 『太平記』の概要
3. 『太平記』の諸本
4. 『太平記』の研究史
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. 考察発表とそれにもとづく意見交換

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回で考察する『太平記』の記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

本演習（『太平記』の研究）は、第6 semesterも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：横溝 博 (教授)

講義コード：LB61501, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名：国文学演習】

1. 授業題目：

『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「総角」巻を輪読する。担当者は該当巻の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを事前配布し、発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『源氏物語』「総角」巻を輪読していくことで、(1) 登場人物の造型や語りの有りよう、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 准抛の問題や有職故実、風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ (以降同)
2. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
3. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 「総角」巻の輪読 (一回分相当)
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

11. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
13. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
14. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
15. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容 [50%]、授業への参加度合い [50%]

7. 教科書および参考書：

テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語 第八巻（匂兵部卿～総角）』を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：なし

本演習は、第5セメスターから連続して履修すること。物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：仁平 政人 (准教授)

講義コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学演習】

1. 授業題目：

戦後の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Postwar Japanese Short Stories

3. 授業の目的と概要：

第二次世界大戦以後の日本文学の多様なあり方について、文芸雑誌『群像』(1946年～)に掲載された短編小説を主な検討対象として、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として1960年代後半以降の小説を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

9. その他：なし

本演習は第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LB64202, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：国文学演習】

1. 授業題目：

『太平記』の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on “Taiheiki (太平記)”

3. 授業の目的と概要：

14世紀の長期にわたる動乱を多様な形質の表現によって描き出した『太平記』の記述を考察する演習形式の授業を通して、文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということを知得して行く。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回で考察する『太平記』の記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

本演習（『太平記』の研究）は、第5semesterから連続して履修すること。